

Annual Report 2019

Center for Professional Development in Nursing
Kyoto Tachibana University

京都橘大学

看護教育研修センター

年報 2019



京都橘大学

INDEX

刊行にあたって 3

沿革 4

組織 8

認定看護師教育課程 9

キャリア開発事業 13

2019年度 たちばなSIM事業 14

通信教育課程看護学コース学修成果レポート作成スタート支援講座 19

看護倫理研修 27

資 料 23

資料1 『たちばなSIM 2019』のご案内 24

資料2 2019年度 看護学コース履修者のための学修成果レポート作成スタート支援講座 25

資料3 『看護倫理研修2019』のご案内 26

刊行にあたって

京都橘大学看護教育研修センター所長

梶谷佳子

京都橘大学看護教育研修センターの事業は、2007年に認定看護師教育課程設置によって始まりました。皮膚・排泄ケア分野では2019年度で359名の修了生を輩出しています。

その後、本センターは、「看護職者の専門性を高め、その看護実践力を向上させるための教育研修を行い、地域に貢献する看護職者を育成する」ことを目指し、活動を継続してきました。看護専門職の継続教育として、看護研究支援、看護実践力の向上を目指すたちばなSIMの開催、通信教育課程看護学コース学修成果レポート作成スタート支援講座など、看護職のキャリアを開発するためのプログラムを企画・運営して参りました。活動実績も増え、事業評価を行い、効果的なプログラムの開発を行う段階にあります。

京都橘大学の設置母体である京都橘学園では2014年度から「マスタープラン2022」が始まりました。社会のグローバル化と成熟化が進むなか、社会から学校に寄せられる期待はますます大きく、複雑になっています。このような背景において、2022年までの将来像と実行プランが策定されました。このプランを「マスタープラン2022」と言います。

本センター事業は、地域連携としてマスタープランの一つに位置づくと言えます。学部教育では毎年約100名の看護職者を輩出しています。卒業後も知識・技術を高められるよう、一人一人が学び続けられる環境や機会を作ることが重要だと考えます。その一助となれるようなプログラムを提供していきたいと考えております。また、本学卒業生のみならず、地域で活躍される看護職の方々の要請に応えられるような学習環境が整えられればと願っております。このような形で教育や研究のフィールドである臨床の場を提供して下さっている方々への恩返しができればと考えます。

たちばなSIMにおきましては、2017年度から、卒業生とともに勤務する看護職への門戸を開きました。そして、少子高齢社会において、多くの課題を有する混沌とした医療の中で、常に大切にしたい医療者の構えを問いかけるようなプログラムを構築したいと考えました。それを体現させたものが、看護職の倫理プログラムです。プログラム前半は、学生が実習中に遭遇する倫理的な課題について、そして、後半は、参加者が解決を模索している課題についてディスカッションしました。参加者の方々からは、今後もこのような研修に参加したいとの声や、今後の看護実践で役立てていきたい主旨の意見も聞かれました。今後も継続的に本事業を展開していきたいと考えております。また、通信教育課程看護学コース学修成果レポート作成スタート支援講座のために作成したテキストを活用し、より効果的な学習を支援する取り組みも進めております。実施後のアンケートからも肯定的な評価を得られております。本講座は、毎年多くの応募があります。お一人でも多くの参加者が学位授与まで到達されることを願っております。

各事業の詳細につきましては、それぞれの事業報告をご覧くださいと思います。看護職としてのキャリア開発のために、本センターを大いに活用して頂ければ幸いです。今後も地域に拓かれた大学に附置するセンターとしての役割を自覚しつつ活動の計画・実施・評価を行っていききたいと考えます。

本年報は、本センターの活動報告をまとめたものです。お読み頂き、忌憚のないご意見、ご助言をいただきますようお願いいたします。お知らせですが、看護学部棟の1階にシミュレーションルームが建設中です。充実した設備を備えた施設になる予定です。今後のシミュレーション学習に大いに貢献できると信じています。楽しみにしててください。

沿革

1) 認定看護師教育課程 教員会

開催時期	内 容
2007年度 4月 17日 11月 27日	入試・入学状況と年間計画 修了判定会議と次年度入学までの予定確認および承認
2008年度 4月 23日 11月 26日	入試結果、入学状況、年間教育実施計画および次年度予定について内容の検討と承認 修了判定会議と次年度予定確認および承認
2009年度 4月 22日 12月 15日	2008年認定部審査結果、2009年度入試結果、入学状況と年間教育実施計画の検討 および承認 2009年度生の修了判定会議、2010年度入試結果の確認および承認
2010年度 4月 21日 12月 7日	2010年度入試結果、入学状況と年間教育実施計画の検討および承認 再修了試験不合格者に対する対応について審議 修了生を含めた皮膚・排泄ケア認定看護師を対象としてフォローアップセミナー開催について検討 および承認 2010年度生の修了判定会議、2011年度入試結果の確認と承認
2011年度 4月 27日 12月 14日	2010年度修了報告および2011年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 2011年度生の修了判定会議、2012年度入試結果の確認と承認 休学者が復学する場合の条件等について検討と承認
2012年度 4月 18日 12月 18日 2月 14日 (臨時)	2011年度修了報告および2012年度入試結果について確認と承認 フォローアップセミナーを含む年間教育実施計画および皮膚・排泄ケア分野カリキュラム改訂につ いて検討および承認 2012年度生の修了判定会議、2013年度入試結果の確認と承認 開講期間延長について審議 修業年限・課程の終始期・入学資格に関する規定改訂内容について審議および承認 情報管理誓約書、教員会規定改訂について審議および承認、長期欠席規定については 継続審議となる
2013年度 4月 25日 12月 19日	2012年度修了報告および2013年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 2014年度5月開講について審議および承認 2013年度生の修了判定会議 実習不合格による再履修希望者について審議および承認 授業時間変更について審議および承認 授業時間に関する規定改訂内容について審議および承認 2014年度入試結果の確認と承認
2014年度 4月 23日	2013年度修了報告および2014年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 センター教員の社会貢献活動報告および2014年度の計画の報告 第4回フォローアップセミナー開催について検討および承認

開催時期	内 容
2014年度 12月 9日	2014年度生の修了判定会議、2015年度入試結果の確認と承認 2015年度教育期間の確認と承認
2015年度 4月 22日	2014年度修了報告および2015年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認
12月 10日	センター教員の社会貢献活動報告および2015年度の計画の報告 2015年度生の修了判定会議、2016年度入試結果の確認と承認 2016年度教育期間の確認と承認
2016年度 4月 20日	2015年度修了報告および2016年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 皮膚・排泄ケア分野カリキュラム改訂について確認と承認
12月 13日	センター教員の社会貢献活動報告および2016年度の計画の報告 2016年度生の修了判定会議、2017年度入試結果の確認と承認 2017年度教育期間の確認と承認
2017年度 4月 19日	2016年度修了報告および2017年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 皮膚・排泄ケア分野カリキュラム改訂について確認と承認
12月 15日	センター教員の社会貢献活動報告および2017年度の計画の報告 2017年度生の修了判定会議、2018年度入試結果の確認と承認 2018年度教育期間の確認と承認
2018年度 4月 18日	2017年度修了報告および2018年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認
12月 13日	センター教員の社会貢献活動報告および2018年度の計画の報告 2018年度生の修了判定会議、2019年度入試結果の確認と承認 2019年度教育期間の確認と承認
2019年度 4月 17日	2018年度修了報告および2019年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認
12月 12日	センター教員の社会貢献活動報告および2019年度の計画の報告 2019年度生の修了判定会議、2020年度教育期間の確認と承認

2) 看護キャリア開発委員会

2012年度

4月	16日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	7日	第2回看護キャリア開発委員会
6月	7日	第3回看護キャリア開発委員会
7月	3日	第4回看護キャリア開発委員会
7月	31日	第5回看護キャリア開発委員会
9月	19日	第6回看護キャリア開発委員会
10月	16日	第7回看護キャリア開発委員会
11月	20日	第8回看護キャリア開発委員会
2013年	1月	第9回看護キャリア開発委員会
	2月	第10回看護キャリア開発委員会
	3月	第11回看護キャリア開発委員会

2013年度

4月	17日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	21日	第2回看護キャリア開発委員会
6月	17日	第3回看護キャリア開発委員会
7月	23日	第4回看護キャリア開発委員会
9月	18日	第5回看護キャリア開発委員会
10月	23日	第6回看護キャリア開発委員会
11月	27日	第7回看護キャリア開発委員会
2014年	1月	第8回看護キャリア開発委員会

2014年度

4月	23日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	29日	第2回看護キャリア開発委員会
7月	23日	第3回看護キャリア開発委員会
9月	17日	第4回看護キャリア開発委員会
11月	4日	第5回看護キャリア開発委員会
2015年	1月	第6回看護キャリア開発委員会
	3月	第7回看護キャリア開発委員会

2015年度

4月	15日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	27日	第2回看護キャリア開発委員会
7月	6日	第3回看護キャリア開発委員会
9月	10日	第4回看護キャリア開発委員会
10月	14日	第5回看護キャリア開発委員会
11月	27日	第6回看護キャリア開発委員会
2016年	1月	第7回看護キャリア開発委員会
	2月	第8回看護キャリア開発委員会

2016年度

4月	5日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	23日	第2回看護キャリア開発委員会
6月	20日	第3回看護キャリア開発委員会
8月	3日	第4回看護キャリア開発委員会
9月	21日	第5回看護キャリア開発委員会
10月	24日	第6回看護キャリア開発委員会
12月	2日	第7回看護キャリア開発委員会
2017年	2月 15日	第8回看護キャリア開発委員会

2017年度

4月	18日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	23日	第2回看護キャリア開発委員会
7月	12日	第3回看護キャリア開発委員会
9月	26日	第4回看護キャリア開発委員会
10月	30日	第5回看護キャリア開発委員会
12月	18日	第6回看護キャリア開発委員会
2018年	2月 16日	第7回看護キャリア開発委員会

2018年度

4月	17日	第1回看護キャリア開発委員会
7月	11日	第2回看護キャリア開発委員会
9月	19日	第3回看護キャリア開発委員会
10月	16日	第4回看護キャリア開発委員会
11月	21日	第5回看護キャリア開発委員会
2019年	2月 18日	第6回看護キャリア開発委員会

2019年度

4月	23日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	27日	第2回看護キャリア開発委員会
6月	27日	第3回看護キャリア開発委員会
9月	6日	第4回看護キャリア開発委員会
10月	4日	第5回看護キャリア開発委員会
12月	6日	第6回看護キャリア開発委員会
2020年	2月 7日	第7回看護キャリア開発委員会

組織

2019年度

認定看護師教育課程 教員会（当該教育機関内委員）

梶 谷 佳 子	京都橘大学看護教育研修センター	所長
多 田 千和子	京都橘大学看護教育研修センター	准教授（皮膚・排泄ケア認定看護師）
宇 野 育 江	京都橘大学看護教育研修センター	講師（皮膚・排泄ケア認定看護師）
藤 本 幸 三	京都橘大学看護学部看護学科	教授
餅 田 敬 司	京都橘大学看護学部看護学科	准教授
黒 瀧 安紀子	京都橘大学看護学部看護学科	専任講師
長 尾 匡 子	京都橘大学看護学部看護学科	専任講師

看護キャリア開発委員会

梶 谷 佳 子	京都橘大学看護教育研修センター	所長
河 原 宣 子	京都橘大学看護学部長	
松 本 賢 哉	京都橘大学看護学部看護学科	教授
竹 下 夏 美	京都橘大学看護学部看護学科	准教授
岡 田 純 子	京都橘大学看護学部看護学科	専任講師
マルティネス 真喜子	京都橘大学看護学部看護学科	専任講師

認定看護師教育課程

認定看護師教育課程

1. 認定看護師教育課程 皮膚・排泄ケア認定看護師分野の研修について

2019年度認定看護師教育課程皮膚・排泄ケア分野では、4.2倍の受験倍率を経た30名が入学した（13期生）。皮膚・排泄ケアは新生児から高齢者のあらゆる年代に、急性期、慢性期、終末期の全ての病期において必要とされる普遍的な看護ケアであり、急性期病院のみならず地域医療の場においても皮膚・排泄ケア認定看護師のニーズは高い。加えて日本看護協会 認定看護師制度の再構築、教育制度の見直しにより、一時的に教育機関の減少していることから、受験の倍率は増加している。これらのことから、当学を受験し入学する研修生は関西圏のみならず、全国から集まっている。

本課程は2019年5月15日に始まり12月20日に修了した。9月中旬までは、講義と学内演習を行った。前半の講義で学んだ基礎知識を臨床に活用できるよう、後半では臨床で活躍する皮膚・排泄ケア認定看護師を講師にした5回の学内演習、実技演習を行った。9月18日から11月22日までは180時間の臨地実習を行った。実習では、臨床における皮膚・排泄ケア認定看護師の実践、指導、相談を学ぶとともに、自己の課題を明確化することができた。実習終了後は実習の振り返りとケースレポートの作成・発表を行い、12月7日には修了試験を行った。

今年度の研修生30名はすべての科目試験、臨地実習、修了試験に合格し修了することができた。これにより修了生は通算359名となった。

2. 入学説明会実施

入学説明会は、2020年度受験を目指す人を対象に8月27日に実施し、73名が参加した。当センターの教育課程の概要や特徴、募集要項の説明のほか、修了生2名の体験談の発表や研修中の演習を見学した。

また、2020年度からは特定行為研修を組み込んだ新たな教育制度がスタートするが、当センターは2020年度までは従来の教育カリキュラムで行う旨を説明し、学習内容の違いについて理解を得られるよう配慮した。さらに終了後は個別の相談に応じた。2020年度の入学試験には説明会参加者の55名が受験し、合格者は14名であった。

3. 認定審査に対するフォローアップ研修

日本看護協会の認定審査は2020年5月14日に実施される予定である。第13期（2019年度）修了生の認定審査全員合格に向けて、修了後にフォローアップ研修を実施した（2019年1月、3月、4月）。

研修の内容は、認定審査を仮定し修了生が相互に問題を作成、解答と解説を行う。これにより審査に向けて自己に足りない知識を再確認し、モチベーションを保つことを目的としている。2019年1月29日に行われた第1回目のフォローアップ研修では19名が参加した。

4. 教員の専門領域の活動について

【多田 千和子】

- 1) 京都橘大学看護学部3回生に対し「ストーマケア」および「高齢者の皮膚ケア」に関する講義を2コマ、1回生に「フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ」で皮膚や消化器官に関する講義を5コマ実施した。
- 2) 以下の関連学術集会に参加し、最近の知見や情報収集を行い研修教育に活用した。
 - ①第28回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会（奈良）
 - ②第21回日本褥瘡学会学術集会学術集会（京都）
評議委員会に出席、一般演題座長を務めた
 - ③第37回日本ストーマ・排泄リハビリテーション

ン学術集会（静岡）

【宇野 育江】

1) 以下の関連学術集会に参加し、最近の知見や情報収集を行い研修教育に活用した。

①第28回日本創傷・オストミー・失禁管理学会（奈良）

②第21回日本褥瘡学会学術集会（京都）

③第61回関西STOMA研究会（滋賀）

一般演題Ⅱ 座長

2) 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会
京都滋賀ブロック ストーマリハビリテーション

ン講習会実行委員 兼 演習インストラクター

3) 京都橘大学1回生に対し「フィジカルアセスメントⅠ」で腎と体液の恒常性の維持に関する講義を2コマ実施した。

4) 日本コンチネンス協会 電話相談員として適時電話相談に対応した。

看護教育研修センター 准教授
皮膚・排泄ケア認定看護師 多田 千和子

看護キャリア開発事業

■2019年度 たちばなSIM事業 14

■通信教育課程看護学コース

学修成果レポート作成スタート支援講座 19

■看護倫理研修 27

看護キャリア開発事業

■2019年度 たちばなSIM事業

京都橘大学看護学部では、2012年度から卒業生に対するキャリア開発事業として、シミュレーション学習を中心とした研修プログラム「たちばなSIM」を開催しており、今年で8年目となる。

参加した卒業生は、日々、忙しく臨床現場で働くナースだが、「たちばなSIM」では、学生に戻り、学ぶことを楽しんでいる様子が印象的である。懐かしい学び舎で、懐かしい教員が出迎える。参加者は同じ学部の卒業生ばかりで、共通の思い出がある人々。明るい雰囲気、リラックスして研修を受けることができる環境を作り出しているのが、本プログラムの大きな特徴である。それぞれ参加者は、職場での看護実践での出来事、悩みや戸惑いを気兼ねなく、安心して語り合える機会にもなっている。

「たちばなSIM」の基本的なプログラム構成は、レクチャー→スキルトレーニング→シミュレーション→デブリーフィング（振り返り）となっており、参加者が日々の看護実践での疑問を解決しながら、自己の看護実践の振り返り（リフレクション）ができるようにデザインされている。

今年度のプログラム内容は、第1回「母体急変時の初期対応～シミュレーションで動ける助産師になろう～」、第2回「心不全患者と呼吸不全患者をマモル！」とした。

第1回 たちばなSIM

「母体急変時の初期対応～シミュレーションで動ける助産師になろう～」

日時：2019年6月16日(日) 10：00～16：00

場所：清優館 第2実習室

担当教員：兵藤（リーダー）、常田、宗、前田、野島、マルティネス、工藤（富山県立看護大）、学生ボランティア4名

参加者：9名（1年目4名、3年目4名、8年目1名）

研修の目標

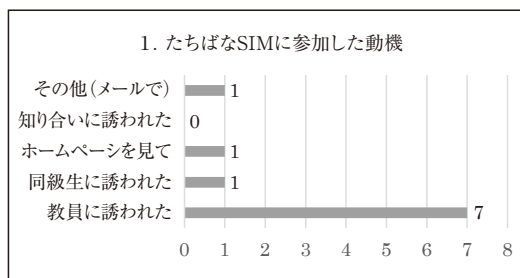
1. 参加者同士が交流・情報交換することにより、コミュニケーションがとりやすい状態で協働的にシミュレーションに臨むことができる。
2. シミュレーションを通して、京都プロトコルに沿った初期対応を身につけることができる。

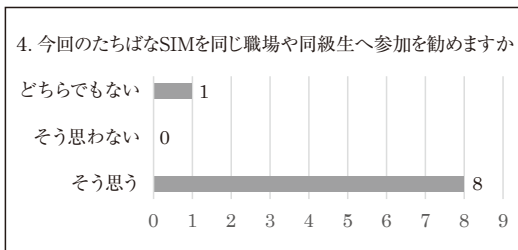
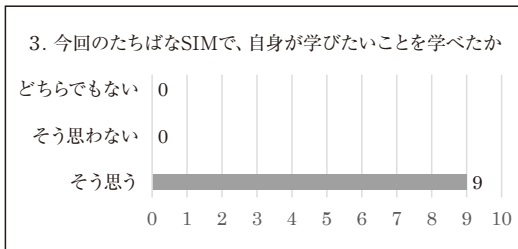
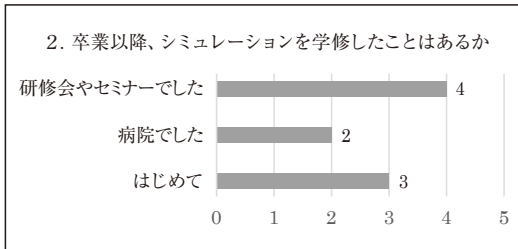
表1 第1回たちばなSIM スケジュール

時間	内容
10：00～	挨拶・オリエンテーション
10：05～	座談会 ・グループに分かれ、自己紹介 ・臨床で経験したこと、印象深かったこと何でも話してみよう！
10：30～11：20	講義 ・「京都プロトコルって何？」 ・「母体急変」
11：20～	スキルトレーニング 「再確認！ 妊婦への胸骨圧迫」 「出血量を当ててみよう」
11：50～13：00	昼食
13：00～14：25	シミュレーション ブースA： 「分娩進行中に咳が出始めた妊婦」
(ブース移動) 14：30～15：55	ブースB： 「正常経陰分娩後の褥婦の異変」
15：55～16：00	アンケート記入・終了

評価

1. アンケート結果





参加者の感想

●アンケート「3. で回答した理由」より

- ・母体急変を予測して、チームでどう動くか実施し、振り返りもできたから。実際の病棟では忙しく、シミュレーション学習するのが難しいので勉強になりました。
- ・異常時の対応について自分がどの程度動けるのか理解できたことが、一番大きな学びだった。
- ・実際、母体急変時に自分がどのように行動をする必要があるのか理解することができた。また、その急変時に自分がどのように感じ、どのような行動をとることができるか分かったため、自分の課題を理解できた。

- ・母体救急は、臨床でいつ行ってもおかしくない状況だが、急変することも少なく、経験することがないから。定期的な研修は必要です。
- ・母体急変はいつ起こるかわからないので、その状況で自分がどのように動けばよいか、何をすればよかったかを明確にすることができたから。
- ・母体救命は対応として何をするのかというプロトコルからシミュレーション学習までできたので良かったです。先輩にたくさん教えてもらったことも多かったので、学びになりました。
- ・自分がどう動けばよいのか、何か必要なのか、状況判断ができずに迷うことが多い中、今回先輩方からも教えて頂くことができたので、勉強になった。
- ・母体急変は助産師として働くにあたって大切なことであるため。

リーダーとして働くことが増え、改めて現場で起こり得る事例のシミュレーション学習をすることで、冷静にどう動けばよいのか、具体的に考え直すいい機会になりました。久しぶりにアドレナリンが出るような事例ばかりで、普段の自分を見つめなおすことができました。

●今後、たちばなSIMで実施してほしい研修テーマ

- ・母体急変対応継続、乳房ケア、NCPRシミュレーション
- ・母体急変だと、子癇の事例とか学びたいです。あたたかことないので、気づけるか、対応どういったことをするのかわからないので。
- ・母体救命、母体急変時の対応、ベビー急変時、ベビー出生後の異常時の対応
- ・母体CNSの方、海外経験のある方と関わるといいなあと思います。
- ・母体急変の今回とは異なる事例
- ・NCPR

2. 次年度に向けての課題

- ・助産師対象のたちばなSIMは、ニーズも高く、毎年開催されることを希望する卒業生が多い。しかし、一方で参加者募集には毎回苦慮している。アンケート結果からもわかるように、教員の呼びかけで何とか参加している状況がある。広報の工夫が必要。
- ・プログラム内容は満足度の高いものとなっている。しかし、参加人数が増えると、シミュレーションで実施できない受講者が出てくることから、ブースの展開やグルーピングの検討が必要となる。
- ・NCPRシミュレーションの要望が多い。母性領域の先生方と、新たなプログラムを組めるか検討が必要。

第2回 たちばなSIM

「心不全患者と呼吸不全患者をマモル！」

日時：2019年7月21日(日) 10：00～16：00

場所：清優館 第1実習室

担当教員：マルティネス、野島、平井、佐野、定森、
学生ボランティア3名

参加者：13名（1年目6名、2年目2名、3年目3名、4年目2名）

*うち卒業生ではない参加者1名

研修の目標

1. 心不全、呼吸不全の基本的な知識を学び直すことができる。
2. 心不全患者の看護、呼吸不全患者の看護について学び直すことができる。

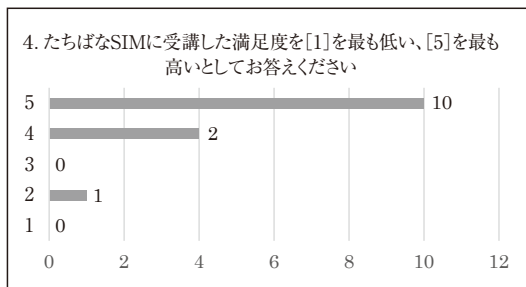
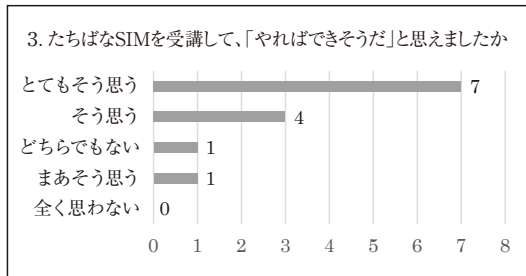
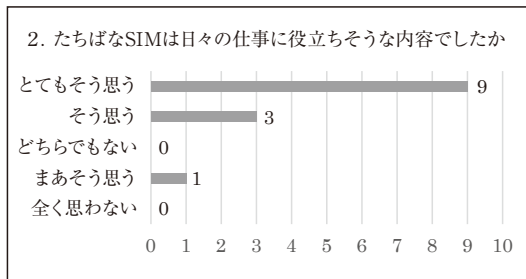


写真 ブースB「呼吸不全患者をマモル！」のワーク

3. 得られた学びを自身の仕事に活用できる、と感じることができる。
4. 楽しく学ぶことができる。

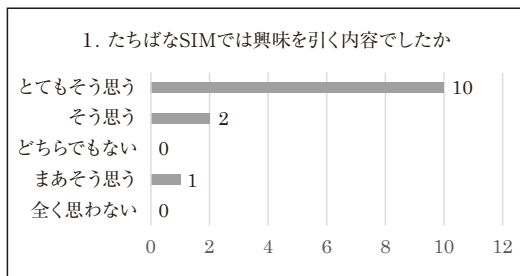
表2 第2回たちばなSIM スケジュール

時間	内容
13:00～13:10	挨拶・オリエンテーション
13:10～13:30	アイスブレイク ・グループに分かれ、自己紹介 ・臨床で経験したこと、印象深かったこと
13:30～14:10	講義 「必要な知識の確認・事例の紹介」
14:10～15:10	ワーク① Aチーム:「心不全患者をマモル!」 ～再入院を防ぐ退院支援・コン コーダンス～ Bチーム:「呼吸不全患者をマモル!」 ～心不全からの呼吸不全をフィ ジカルアセスメント～
15:10～15:20	休憩
15:20～16:20	ワーク② Aチーム:「呼吸不全患者をマモル!」 Bチーム:「心不全患者をマモル!」
16:20～16:50	学びの共有～グラフィックレコード を用いて～
16:50～17:00	終わりの挨拶・アンケート記入・終了



評価

1. アンケート結果



＜感想＞

- ・経験のない事例だったので、いい学びになった。
- ・ENT支援のことや急性期のことについて学びなおせてよかった。
- ・普段、何気なく考えていること、行動していることを振り返ったり、いろんな意見をきけて勉強になった。
- ・心不全の患者さんはあまり入院してこないけど、高齢者が多く、心機能の低下している患者さんがいるため、心不全について学べてよかったです。



写真 グラフィックレコードで全員の学びを統合

- ・他の病院で働いているNSの話とかも聞けて、新たな気づきや学びがあった。
- ・シミュレーションを通して今までの知識の整理・新しい知識を得ることができた。退院支援という内容でも、どう関われば、今後悪化しないようにつなげられるのか考えるきっかけになった。
- ・教科書の内容だけでなく、実際の現場での話が聞けてよかった。また循環器や心外のテーマでやってほしいです。

《希望するテーマ》

- ・楽しかったです。いろいろなパターンの急変対応もいいと思います。
- ・急変時の初期動作（救急カートつかう）
- ・モニター見方！！！！
- ・心電図モニターの見方。呼吸状態の観察方法。
- ・どんなテーマでも受講していきたいです。

2. 次年度に向けての課題

- ・プログラム内容として、シミュレーターを使用する形式ではなく、ディスカッションメインであったが、卒業生がそれぞれの現場での状況を語り合

い、情報交換できる場となった。

- ・毎回、テーマの要望として、急変対応、心電図モニターの見方があがるため、次年度はテーマとしてよいのではないかな。
- ・プログラムの実施時間を13時～としているため、受講者は参加しやすいとのことであった。夜勤明けでも参加できる時間帯である。しかし、オープンキャンパスとの兼ね合いでは、見どころが少ない時間帯となるため、今後はオープンキャンパスと同日開催にするかは検討が必要。

日々、臨床現場で様々な困難に向き合い、看護の魅力を見失いそうになることもあるかもしれないが、そんな時は、「たちばなSIM」に来てほしい。知識や技術の再確認ができ、自分の看護実践を仲間とともに振り返り、看護の楽しさを再確認できる場が「たちばなSIM」である。看護師としてこれからも病と向き合う人々の支えになり、専門職者としてキャリアアップしていく卒業生たちを支える場づくりにこれからも取り組んでいきたい。

マルティネス 真喜子

■通信教育課程看護学コース学修成果レポート作成スタート支援講座

『看護学コース履修者のための学修成果レポート作成スタート支援講座』は、本学健康科学部心理学科通信教育課程で看護学コースの科目等履修で単位取得した学生が、大学評価・学位授与機構に学位申請のために提出する学修成果レポート作成のスタートを支援するための研修として、2013年度から開始した。2013年度は個人指導としたが、受講者が主体的にレポート作成に取り組めるよう、2014年度からグループ演習を中心に展開している（表2参照）。

1. プログラムの概要

本講座のプログラムは、レポート作成のプロセスに添い、STEP1《テーマを絞る》、《テーマに関連した文献検索》、STEP2《レポートのアウトラインの作成》の2回で、グループで学習する。開講時期は5・6月であり、STEP1とSTEP2の間は1ヵ月あけ、受講者が課題意識を持って取り組めるようスケジュールを設定している。講師は本学教員と通信教育課程を担当する教員、外部講師、本学の看護学部教員が担当した。（表1参照）。

6月11日のSTEP1に関しては、今年度のみ梅本理事長の公務により、代行でレポート作成方法について竹下が担当した。

2. 受講者数

受講者数は、A日程は4グループ編成、B日程では2グループ編成とした（表2参照）。

3. 受講の目的、理解状況

プログラム受講時のアンケートをもとに、参加動機、講座で理解できたこと、受講した感想等を下記にまとめた。アンケートの回答数はA日程のSTEP1が30、STEP2が23、B日程のSTEP1が10、STEP2が7だった。

1) STEP1 テーマをしぼる

(1)参加動機・目的

- ・学士の資格に興味があったが学士申請方法がよくわからなかったから。
- ・レポートを作成する前にどのような点が必要な

表1 プログラムの概要

STEP1：《テーマを絞る》		
10:00～10:30	学位授与機構申請に関するガイダンス	花岡、岡本
10:45～12:15	論理的思考について（講義）	講師：梅本
13:00～16:15（休憩15分含）	レポート作成にむけたグループワーク、 テーマに関連した文献検索（演習）	A日程講師：上澤・岡田・鈴木・穴吹 B日程講師：竹下・鈴木・穴吹
STEP2：《レポートのアウトラインの作成》		
13:00～16:15（休憩15分含）	レポート作成にむけたグループワーク（演習）	A日程講師：竹下・岡田・鈴木・穴吹 B日程講師：竹下・鈴木・穴吹

表2 受講者数とグループ数

	日程	時間	受講者	グループ数
STEP1	A日程：5月14日（火）	10：00～16：15	30名	4
	B日程：5月23日（木）	10：00～16：15	10名	2
STEP2	A日程：6月11日（火）	13：00～16：15	23名	4
	B日程：6月20日（木）	13：00～16：15	7名	2

のかを知りたかった。

- ・レポート作成方法、内容が分からなかったため。
テーマが絞り込めなかったため。
- ・レポート作成の基礎を学びたいと考えたため。
- ・学修成果レポートについて具体的なイメージが全く湧かなかったため、何をどうしたらよいのか少しでも理解して、行動につなげたいと思った。
- ・一人で長文レポートを書く自信がなかった。仲間を作り、同じ目標に向かって話し合ってみたかった。
- ・文章の書き方、テーマの絞り方に不安があったため。
- ・学修成果レポートとはどのような位置づけで、レベルで、研究等も必要なかが知りたかったため。
- ・必ず看護学士を取得したいから。
- ・最初に考えたテーマから考えがまとまらず、別のテーマが良いかと悩んだため。
- ・レポートのテーマを考える上で、指導を受けたかった。
- ・学位授与の申請手続きを理解するため。
- ・テーマがこれでいいのかという確認と実際レポートの記載についてのポイントを知りたかったため。
- ・学位申請するにあたりわかりにくいことがあった。学修成果のまとめ方が分からなかった。進め方を知りたかった。

(2)理解できたこと

- ・提出物や、これからどのように行動していくべきか理解できた。
- ・論理的思考、レポート作成手順
- ・文章の書き方、文献検索の仕方

・学士の申請の仕方がわかった。

- ・学位授与のレポートの書き方、文献検索方法
- ・学士申請方法やレポート作成の概要が理解できた。
- ・わかりやすい文章の作成方法、文献集めの方法、学士への道のりの概要。
- ・レポート作成に必要な手続きの流れや考え方。資料の探し方。
- ・申請書類を早く用意すること、文献検索方法、文字数を増やしつつ、わかりやすい文章の書き方。
- ・論文を書くとき、一文を短くする。テーマを絞って解析していく。
- ・接続詞を使うことで深みがでる。
- ・学位授与申請方法、レポート作成の手順等を理解できた。
- ・レポートで何をどの視点から考えるか、テーマを絞れた。書き方についても一文一義、「こと」を使わないなど学べた。
- ・レポートの書き方の注意
- ・テーマの選定、方向性について、文章の具体的な書き方
- ・学修成果のテーマについて絞り方や考え方が分かった。
- ・言葉の使い方、一文一義を意識して書くことで自分の述べたい内容が分かる。文献検索・レポートに関連したキーワードが何となくわかった。
- ・文献の調べ方、書き方、アウトラインを書くことが一番大変だということ。
- ・基本的な文章の書き方、文献検索法

(3)理解しにくかったこと。

- ・キーワードがうまくフィットしなかったのが不安

- ・文献を使ってどのように文章を組み立てるのか、引用するのか、どう考察を入れていくのかわからないので、どの文献が自分の書きたいものに適しているのかわからない。
- ・レポート作成にあたり、必要な文献の場所がわからにくかった。
- ・テーマの絞り込み方法。
- ・提出書類の有効期限の有無。
- ・実際の進め方（学習成果レポートについて）
- ・レポートの書き方。
- ・構成がいまいちわからなかった。
- ・文献検索、PCの使い方の詳細。図書館利用の意義。

(4)感想

- ・レポートを書く上で少しイメージがついた。
- ・文献検索の仕方が教える方によってばらつきがあり、戸惑った。
- ・自分では学士申請の仕方が分からなかったが、今回の講座でわかった。
- ・レポートの作成にとりかかる意欲がでてきた。
- ・グループの皆で協力して文献検索できたことが心強かった。
- ・今まで何も準備していなかったが、とりあえずテーマを皆の前で話して、既存文献を検索してみ、とりあえず少しでも書いてみよう和前向きな気持ちになれた。
- ・とてもよかった。申請についての話を早めに聞くことであれば、不安は少なかったと思う。流れの説明だけでもスクーリングする機会があればうれしい（3000円までで）
- ・文章を深く書き込むコツがわかってよかった。
- ・皆さん悩み、進め方に困惑していて、一人だけではないと思うと、心強く感じた。

- ・他の受講生の意見が聞けて良かった。
- ・まずは、先行研究を調べてみたい。
- ・わからないことばかりで不安でしたが、先生方のご丁寧なご指導やグループの仲間と出会い意欲がでてきた。
- ・周囲の同じ志の方と一緒に考えられて受講してよかったと感じた。レポートの書き方の講義は、とても分かりやすかった。
- ・長らくレポートから離れていたため、書き始めやおおまかな流れを考えられた。次来的时候は、レポートが書けるように資料をまとめてきたい。
- ・おおよそのアウトラインは何となく理解できた。
- ・このような機会を作ってもらえるのはとてもありがたい。
- ・実際にテーマについて相談することができて、今後のレポート記載についてイメージがついたのと、方向性が定まったので、参加してよかったと思う。バスの本数が少なく、山科駅から乗車できない生徒さんが数名みられた。実際のバスもとても混雑していた。
- ・一人では学位申請するにあたり不安なことやわからないことがあっても誰に相談したりすればいいのかわからないが、こういう講座があると相談できるのでありがたい。
- ・同じ目的をもつ人と話すことでレポート作成に向けて前向きになれた。
- ・グループでいろいろな人の思いを知ることができて楽しかった。他にも興味を持つ内容もあったので、是非できたものを見たい。
- ・受講生どうして意見交換できたので、今後の進め方のヒントが見えた。
- ・とても受けてよかったと感じた。また次回しっかり準備して臨みたい。

2) STEP2 レポートのアウトラインの作成

(1)参加動機・目的

- ・アウトラインの理解。
- ・自分の研究テーマの方向性について指導を受けなかった。
- ・学士を取るためのレポートの書き方を学ぶため。
- ・方向性を知りたかった。
- ・自身でレポート作成を進めることに不安があったため。同じ目的を持った人達と接することでモチベーションを高めたかったため。
- ・学位授与機構を通じて、学士申請を考えたが、何から始めたらよいのか分からず、受講しようと考えた。
- ・前回までテーマを考えていたが、途中これでも悩んだため。
- ・レポートをどう書いていいか、漠然としていてよくわからなかったから。一人でやると、このまま書かないで終わりそうだったから。
- ・学修成果レポートの記載方法に不安があったため。自己のモチベーションをUPするため。
- ・学修成果レポート作成の方法を知りたかったため。
- ・実際に書き出すと、進め方、記入方法がわからず、考え方の整理のため。
- ・学修成果レポートを作成するための知識やアドバイスをもらいたい。
- ・レポートを作成した経験が少なく、どのように書いたら良いのか、頭の中で整理をしてから取り組みたいと思っていたため。
- ・自己のみでのレポート作成に不安があったため、今後大学院進学を見据えたときに受講が必要だと思ったため。
- ・レポート作成したことがないため。書き方を学ぶため。

- ・看護学士を絶対にとりたいから。
- ・自分自身の決めたテーマやまとめ方について、詳しく教えて頂きたかったため。
- ・レポートを書く経験がほぼなかったため、基礎を学ぶため。参加することで、自分のやる気、取り組む意欲につなげる。

(2)理解できたこと

- ・アウトラインを作成し、具体的にレポートの書き方、構造を作成すること。
- ・テーマの統一性、アウトラインの構成、引用文献の使い方。
- ・文献キーワードなど。
- ・テーマを絞れた。おおまかなアウトラインのイメージが作れた。
- ・自分が何を明らかにしたいかを細かく考えていく必要があると実感した。
- ・自分の方向性と全体像が見えた。
- ・自分が考えていたテーマでは書きあげが難しいこと。もう一度テーマを絞ることから始めたほうが良い。
- ・実際の卒論を見て、具体的な論文記載のイメージがついた。たくさんの文献が検索できた。テーマが決まり、方向性も見えて、実際執筆できそうである。
- ・アウトラインの作成方法、どんな風に文章を組み立てていくとよいか。
- ・レポートの文の組み立て方が分かった。
- ・学士レポートのアウトラインの書き方。
- ・文献の使い方、結果の導き方など、少し知れたように思う。
- ・アウトラインの書き方、項目の書き方、文献検索方法
- ・論文校正の方法がわかった。

- ・迷い迷って自分の中で範囲を定めることができず、どこに着地点を置くのか分からなくなったことが解決できた。
- ・レポートの枠組み、レポート内容を裏付ける文献を探すということ。

(3)理解しにくかったこと。

- ・どんなレポートを作成すべきか悩んでしまった。
- ・自分の書きたいと考えていたことに看護の視点を組み込みようにして書いていくこと。ほかの人の意見を聞いて、レポートに入れた方が良いと思うものもあった。方向性が何となくわかった。
- ・レポートを論文と同じアプローチで書いてよいのか、学修成果レポートとしてのポイントは何かのかわからなかった。
- ・文献検索はできたが、具体的な書き方などが知りたい。

(4)感想

- ・一人で行うには不安が強いので、心強かった。
- ・自分一人で悩むより、講義を受けた方がイメージ・やる気がでて参加してよかった。文献検索の時間がもう少し欲しかった。
- ・決められた時間で、一人ずつ指導を受けられるともっと良かった。
- ・本当に気づきをたくさん得られた。今日はハッと気づき、そこから広げることができ、本当に有意義であった。2回で終了がさみしい。
- ・これで終わりとなると不安が強いので、3回目や4回目の講座を期待。
- ・筋道が見えたのでよかった。
- ・単位取得後、6カ月～1年は、オンラインの「レポート作成講座」が見られるようにしてほしい。

履修生でなくなると見られなくなる。

- ・参加できてよかったと思う。2回ではなく3回ぐらいあるとうれしい。通信教育課のPCルームの使用ができるようにしてほしい(受講日1日中)
- ・ぼやけていたレポートの部分を明確化できた。
- ・受講してよかった。ただ、日常業務もあり、前回から今回にもう少し時間が欲しかった。
- ・丁寧に教えて頂いたので、ある程度の学修成果レポートの書き方はわかったので良かった。学修成果レポートの提出前(8～9月ごろ)にもう一度、ある程度出来上がったレポートを持ち寄り、アドバイスをもらえる場があれば嬉しい。
- ・いろいろな人の考え方や経験を知ることができて楽しかった。頑張って申請できるまでもっていききたい。
- ・もう少しパソコンが多くあるとよかった。
- ・実際に大学の教員からレポートを書く際の注意点や考え方が学べて非常に有意義な時間であった。
- ・とてもためになった。受けてよかった。
- ・院内の看護研究にも応用できる思考力を見つめられたと思う。倫理問題に触れないような書き方が重要だと知った。
- ・同じ志を持った方と、一緒に勉強することで心強かった。
- ・先生やグループのメンバーにより刺激を受けることができ、意欲につながった。
- ・レポートを書くという前向きな気持ちになった。グループメンバーの発表を聞くことで参考になる文献や方向性の発見があった。
- ・一回目にかかなり心が折れた。「テーマが見つけれず、何を書いてよいのか分からない人に・・・」という講座と思い参加したら、結果的に準備不足であり、出遅れてやる気力を失く

してしまうくらい落ち込んだ。しかし、指導の先生の求める位置づけが明確であったため、自分の出来ることから、日々1ページを書き出す努力をすることへの動機になった。また、グループメンバーのサポートのおかげで、随分と励ましてもらえたことに感謝している。

4. 「レポート作成講座」WEBコンテンツ事前学修状況について（進捗率/人数）

A日程：100%/26名 50～60%/2名 0%2名

B日程：100%/7名 10～20%/2名 10%未満/1名

5. アンケート結果より申請ガイダンスについて（口頭質問）

1) ガイダンス内での質問内容

- ・申請書類について
- ・レポートの体裁について
- ・高校、専門学校への発行依頼の書類の体裁について
- ・自身の申請区分について
- ・外国語の修得単位の分類について

2) アンケート回答より（※申請ガイダンスの内容を抜粋）

(1)感想

- ・学士の申請の仕方がわかった。
- ・提出物や、これからどのように行動していくべきか理解できた。
- ・レポート作成に必要な手続きの流れが理解できた。
- ・学士申請方法が理解できました。
- ・申請書類を早く用意すること。
- ・申請について準備が大変であることがわかった。
- ・授与までの大まかな流れが理解できた。

- ・学士申請の仕方、必要なものが分かった。
- ・自分では学士申請の仕方が分からなかったが、今回の講座でわかった。
- ・申請に必要な書類等が理解できた。

(2)その他要望など

- ・とてもよかった。申請についての話を早めに聞くことであれば、不安は少なかったと思う。流れの説明だけでもスクリーニングする機会があればうれしい（3000円まで）
- ・単位取得後、6カ月～1年は「レポート作成講座」が見られるようにしてほしい。
- ・参加できてよかったと思う。2回ではなく3回ぐらいあるとうれしい。通信教育課のPCルームの使用が受講日1日中できるようにしてほしい
- ・もう少しパソコンが多くあるとよかった。

(3)次年度開催に向けた課題検討事項等

- ・受講者の参加日程の分散（各日程の参加者上限を設定）
- ・受講生の学位申請状況の確認→報告必須として案内資料へ報告スケジュールを仕組み化
- ・学位授与機構申請のガイダンスは継続

6. 2019年度の振り返り、今後の課題と対策

今年度は、A日程とB日程の受講者数に大きな差があり、個々の文献検索の時間が足りず、全体の流れが悪くなったことや講師による指導方法に差があったことが指摘された。そのため、初日以外は通信教育課担当者がPCを追加するなど対処を行った。文献検索については、「近隣の大学・施設や看護協会等を活用し、自分自身で情報を取得するための方法を教えることが最も適切である」と意見があり検

討することとなった。

毎年受講者数が増えており（2018年度：27名、2019年度40名）、今後も受講希望者が増加すると見込まれる。次年度、外部講師を増やす場合、論文指導ができる講師の選定が困難であることが考えられるため、実際の学位申請合格者に指導してもらうのはどうかという提案があった。また、通信教育課としても、受講生の学位申請後の状況追跡に努めており、受講生とつながりを持つよう計画しているところであることが報告された。次年度以降、受講者数の上限を設けること、現在のA日程・B日程にC日程を追加するか等の課題を検討していく必要がある等の意見があった。

プログラム順の変更について提案がなされたが、受講生にヒアリングしたところ、現行のままでよいという意見が多かったため、変更は行わないこととする。受講後のアンケートでは、「STEP3・STEP4を開講してほしい」「学位申請前の8～9月に開講してほしい」「添削してほしい」などという意見があった。また、通信教育課よりWEBコンテンツ事前学習についても受講率が高いため、レポート作成への意欲があるとの報告があった。

上記以外にも、「学位申請の結果を数値化して、今後この事業の規模をどの程度で行っていくか検討すべきである」という意見があった。それに対し、通信教育課より、毎年アンケート調査を継続して、まずはデータを積み重ねていくことが報告された。

7. 看護学コース、在学生向け、学位取得支援ツール開発

在学生向けに下記内容を開発中であることが通信教育課より報告された。

- 学位取得に向けたスケジュール(10月・4月申請)
- 準備物の紹介

証明書等の準備物

- 提出するレポート概要の案内
- 今からできる対策（在籍期間中でやっておいた方がよいことの紹介）
 - ・レポート作成講座の視聴
 - ・自身のレポート作成テーマの考察（レポートのまとめ方をHPで視聴可能）
 - ・在籍期間中にPCルームを利用促進し、文献検索方法の紹介
- 学位申請ガイダンスの内容や学位取得に向けての対策等に関する内容等をエクールシステムで配信
- これまでの学位取得者の声を冊子にして配信
取材内容やインタビュー内容、アンケート結果などをまとめた冊子を学内で作成
- 学位申請に関する質問に対応するため、Q&A一覧表を作成する

（文責）看護学部看護学科 准教授 竹下 夏美

■看護倫理研修

京都橘大学看護学部では、2018年度より、看護職者を対象とした「看護倫理研修」を開催している。2018年度は、「実習指導者の役割を担っている、あるいは、今後担う方」を対象に行ったが、今年度は、さまざまな経験を有する方に看護倫理について学んでいただきたいと考え、「病院や施設で働く看護職者」を対象とした。

研修は、「臨床で直面する倫理的課題への向き合い方―事例を通して考えよう―」というテーマで、

開始時間は午後からとした。受講生は、前半に、倫理的問題や課題について考える際に必要な基本的知識と思考プロセスを身につけるための講義を受け、後半に、倫理に関する事例を用いたグループディスカッションを行った（表1）。

今年度の参加者は8名で、年齢や看護師経験年数は多様であった（表2）。参加の動機は、倫理のことを改めて振り返る機会を得たい、病棟で倫理カンファレンスをするための視点を学ぶため、日々倫理

表1 2019年度「看護倫理研修」スケジュール

開催日時：2019年9月10日(火) 13時～18時		
【テーマ】		
「臨床で直面する倫理的課題への向き合い方―事例を通して考えよう―」		
【ねらい】		
◆倫理的問題や課題について考える際に必要な基本的知識と思考プロセスを身につけることができる。		
◆倫理に関する事例を通して、臨床の場における倫理的な問題や課題を明らかにすることができる。		
◆異なる経験を有する看護職者とのディスカッションを通して、倫理的な看護実践について、それぞれの立場で考えることができる。		
時間	内容	担当
13:00～13:10	オリエンテーション	岡田
13:10～14:40	【講義】 倫理に関する基本的知識、思考プロセス	梶谷
14:40～14:55	休憩	
14:55～15:00	事例検討のすすめ方、グループワークと発表の仕方	岡田
15:00～16:00	【グループディスカッション①】 自己紹介、役割分担（司会、発表者） 模擬事例について、倫理的意思決定の4ステップモデルを用いて整理する。	岡田 岩崎（真）
16:00～16:15	中間発表、グループ討議（考え方の整理）	
16:15～16:30	休憩	
16:30～17:30	【グループディスカッション②】 グループメンバーから出された事例をもとに、4ステップモデルを用いて整理しながら、倫理的な看護実践について考える。	
17:30～18:00	発表、ファシリテーターからコメント 研修のまとめ 修了証書授与（梶谷センター長）	

表2 参加者の概要（8名）

年齢	20代：5名、30代：2名、40代：1名
看護職者経験年数	1年未満：2名、2年目：1名、6年目：2名、8年目：1名、10年以上：2名
職場での役職等	スタッフ：4名、実習指導者：1名、未回答：3名



写真1 (前半) 倫理に関する講義

的な問題に関して考えることが多いため、などで、日々の看護実践における倫理的な課題への向き合い方を学びたいという思いが感じられた。

前半の講義では、参加者は、看護倫理を学ぶ意義や倫理における歴史的経緯、医療における倫理原則、看護者の倫理綱領などについて、用語の意味も確認しながら基本的な知識を学んだ。後半は、本学で準備した模擬事例について、倫理的意思決定の4ステップモデルを用いて整理する【グループディスカッション①】と、参加者自身が経験した事例をもとに話し合う【グループディスカッション②】を行った。参加者は2グループに分かれ、自己紹介をしたうえで、自身の経験談を交えながら、熱心にディスカッションしていた(写真1、2)。

【グループディスカッション①】では、参加者は、

「自分も学生のころはこうに考えていた」、「今はこれが普通になってしまっている」など、自部署での看護を想起し、自分の考えや行動を振り返りながらディスカッションを進めていた。【グループディスカッション②】は、実際に現場で遭遇するリアルな内容の事例にもとづいた討論であったため、より具体的に話し合うことができていた。例えば、実際の状況やその場面で当事者が考えたことなどを確認しながら討議を進めることで、事例提供者自身も、「私ってそういう風に考えていたんだ」といった思考の振り返りの機会を得ていた。さらに、他の参加者からのさまざまな意見をきくことで、「自分の考え方でこの時はよかったのだ」といった確認や、「今回はこんな風に考えてみよう」といった看護への示唆を得ることができていた。このように、グループ



写真2 (後半) グループディスカッション

ディスカッションでは参加者同士の活発なやり取りが展開されており、参加者は日々の看護において思い悩むことや迷うことなどを自由に発言し、異なる立場の看護専門職からの意見に耳を傾け、自身の看護実践について考えることができていた。

研修参加者は、倫理的な課題への対応について、「倫理は難しいもの」、「忙しいと、こちらの都合で良いようにジレンマをすりかえていた」、「ジレンマについてどのような対応をすればよいのか分からない」といったイメージを持っていたが、受講後は、「倫理的に考えることは難しいが、原則にあてはめて考えることで、初めて見えてくることが多くあり、病棟でも活かしていきたいと思った」、「倫理的課題についてどのように考えていけばいいのか、他の人の意見を聞くことで視野が広がった」などと回答して

おり、多くの学びを得たことを実感していた。本研修は、参加者全員が倫理的な課題について丁寧に振り返り、どのように向き合っていけばよいのかを考えられるように、少人数でのグループディスカッションと、複数のファシリテーターで進行するという方法を採用している。このことが、自由で活発な意見交換、言いたいことを言える雰囲気醸成、参加者の高い満足度につながったと考える。

今回は2度目の看護倫理研修であったが、参加者からは、楽しかった、有意義な時間だった、また参加したいといったよい評価が得られた。今後も、臨床の看護職の学びにつながるようなプログラムを企画していきたい。

看護学部専任講師 岡田 純子

資 料

資料 1

2019 京都橘大学 看護教育研修センター

たちばなSIM.

大学卒業後も看護学を学び続け、保健医療の現場で活躍する卒業生を応援する事業です。
 リラックスし、安心できる学びの空間で、働きながら身に付けた知識を改めて学びほぐす場を提供します。
 シミュレーションを取り入れながら楽しく学ぶ「たちばなSIM.」、みなさんの参加をお待ちしています!!

開催場所 京都橘大学清優館 演習室 **参加費** 卒業生 ¥3,000/回 その他 ¥4,000 /回
 (教材費・お弁当or軽食・茶菓子を含む)

対象者 本学部卒業生

卒業生じゃない友達も一緒に参加OK!!

定員 各30名(先着順)

担当教員 野島 敬祐 マルティネス 真喜子 兵藤 絵美 その他

program

第1回 母体急変時の初期対応!

最新シミュレーターで学び、動ける助産師になろう!

2019年6月16日(日) 10:00~16:00

第2回 心不全患者と呼吸不全患者をマモル!!

2事例のシミュレーション演習を通して、「知識」と「技術」を磨くトレーニング!!

2019年7月21日(日) 13:00~17:00

お申込み方法

専用入力フォームからの申し込み → <https://goo.gl/HCVB5H>
 京都橘大学看護学部のfacebookからの申し込みもOK!!

お申込み・お問い合わせ先

京都橘大学 看護教育研修センター
 〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34
 TEL&FAX 075-574-4133
 E-mail 3academic@tachibana-u.ac.jp
 ※9:00~17:00 (土・日・祝日を除く)

資料 2

2019 年度 京都橋大学 看護キャリア開発事業
通信教育課程看護学コース履修者のための
学修成果レポート作成スタート支援講座

京都橋大学看護教育研修センター

京都橋大学健康科学部心理学科通信教育課程で看護学コースの科目等履修生として修了された皆さんは、大学評価・学位授与機構に学位申請をされる際に学修成果レポートの提出が必要です。

学修レポート作成にむけて、何を書こうか、どのように進めていったらよいかなど、不安をお持ちの方もいらっしゃると思います。そのような方々に対し、レポート作成スタート支援を行う講座を開催いたします。

この講座は、学修レポート作成のスタートを支援するものです。原則的に個人指導ではなく、**グループワークで学習を進めます**。学位申請という同じ志をもつ人が互いに支えあうネットワークを作ってください。そして、受講後は、互いに支えあって学修レポート作成に取り組んでください。

【受講対象者】
本学の科目等履修生「看護学コース」を修了された方および修了見込の方で、
2019 年 10 月期申請または 2020 年 4 月期申請を予定されている方。

※通信教育課程の前期科目修了試験は 8 月に実施されます。
履修中の方はしっかりと学修計画を立てて、看護学コースの科目修了試験に向けての学習および学修成果レポートの作成を進めてください。
※未修得単位があり、2019 年度に在籍期間延長予定で本講座の受講を希望される方は、事前に通信教育課にお問い合わせください。
TEL：075-574-4335 ※9：00～17：00(土・日・祝日は除く)
E-mail：admin@tachibana-school.jp
(講座申し込み先ではありませんのでご注意ください)

【日程】
2 日間の学習プログラムです。A 日程、B 日程のいずれかを選んでください。

※ Step2 のみの受講はできません。

	日程		時間
	A 日程	B 日程	
STEP1	A 日程：5 月 14 日(火)	B 日程：5 月 23 日(木)	10：00～16：15
			10：00～16：15
STEP2	A 日程：6 月 11 日(火)	B 日程：6 月 20 日(木)	13：00～16：15
			13：00～16：15

【開催場所】
京都橋大学 清健館 A406

【プログラム】

学位授与申請に関するガイダンス		
10:00～10:30	学位授与申請に関するガイダンス	通信教育課
Step1：＜テーマを絞る＞		
10:45～12:15	論理的思考について (講義)	講師：京都橋学園理事長
13:00～16:15 (休憩 15 分含)	レポート作成にむけたグループ学習	講師：京都橋大学教員、 外部講師
Step2：＜レポートのアウトラインの作成＞		
13:00～16:15 (休憩 15 分含)	レポート作成にむけたグループ学習	講師：京都橋大学教員、 外部講師

【受講料】

Step1 のみ	15,000 円
Step1 と Step2	30,000 円

【事前準備】

・受講前に、レポート作成講座 (無料) の視聴を済ませておいてください。

【その他】

・受講日は、学食・生協の利用が可能です。
・受講日は、大学内の文献検索が可能です。
・参考文献として以下を挙げます。
『松本麗, 秋場研 (2014)：短大・専門学校卒ナースが簡単に看護大学卒になれる
本 改訂 4 版, エール出版社, 東京。』

【申し込み・問い合わせ】

申込期間：2019 年 3 月 1 日 (金) 10：00 ～ 2019 年 4 月 12 日 (金) 17：00
申込方法：下記 URL の「申込フォーム」よりお申し込みください。
<https://goo.gl/6Nxa3k>
申込受付後、受講料振込方法をメールにてご案内します。

問い合わせ先

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34
E-mail：3academic@tachibana-u.ac.jp
京都橋大学 看護教育研修センター
TEL&FAX：075-574-4133 ※9:00～17:00 (土・日・祝日は除く)

資料3

京都橘大学看護教育研修センター

2019年度看護キャリア開発事業
倫理研修会のご案内「臨床で直面する倫理的課題への向き合い方
—事例を通して考えよう—」

臨床で体験する倫理的課題にどのように向き合っていったらよいのか、参加者の皆様とさまざまな視点で話し合いたいと思います。倫理的な問題でお悩みの方、是非ご参加ください。皆様の参加を心よりお待ちしております。

日時 : 2019年9月10日(火) 13時~18時
場所 : 京都橘大学
対象者 : 看護職者
定員 : 20名(先着順)
参加費 : 3,000円(資料代、軽食・お茶代込)

※2018年度参加者の声※

他の人に話をしたり、
意見を聞くことで、
問題が整理されました。

内容

講義 : 倫理に関する基本的な知識思考のプロセス
グループディスカッション :
倫理的意思決定モデルを活用し
具体的な事例をもとに話し合う



【申し込み】

下記URLまたは右のQRコードから、看護キャリア開発事業にアクセスして頂き、申込フォームにそって必要事項を記載してください。申し込みが確認できましたら、担当者よりご連絡させていただきます。不明な点は下記問い合わせ先までご連絡下さい。
http://www.tachibana-u.ac.jp/about/nursing/career_development/



担当事務・問い合わせ

京都橘大学看護教育研修センター
看護キャリア開発事業担当

TEL&FAX: 075-574-4133

E-mail: 3academic@tachibana-u.ac.jp

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34

※9:00~17:00(土・日・祝日は除く)



育ちあう、響きあう

京都橘大学

最後に

新型コロナウイルスの影響により世界中で感染者が増大し、収束の見込みも立たない状況になっております。さまざまなイベントが中止になり、誰もが不安の中で生活をしています。このような苦境のな

か、医療職として一人の人間として何ができるかを日々問われている気がいたします。感染の広がりが収束し、発症された方々が1日も早く回復することを祈っております。

京都橘大学看護教育研修センター 年報2019

発 行：2020年3月

発行・編集：京都橘大学看護教育研修センター

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34

Tel & FAX：075-574-4133

E-mail：cpdn@tachibana-u.ac.jp

URL：http://www.tachibana-u.ac.jp/about/nursing/